

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500020		
法人名	特定非営利活動法人ひなたぼっこ		
事業所名	そよかぜ		
所在地	中津川市高山1951番地43		
自己評価作成日	平成22年11月30日	評価結果市町村受理日	平成23年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2191500020&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成22年12月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

そよかぜの設立理念「いつまでも人としての尊厳が保持できるために」を基に選択の自由があり人権とプライバシーが確保され助け合う人間関係の中で行事、要望は入居する方々が日常的に話し合い相談する会「考えよまい会」により計画実行されています。そして一般生活に近い自由度の高い生活と運営への参加をめざしています。ターミナルケアについてはご本人とご家族の意向に添い家族、嘱託医、職員が連携をとりながら体制を整え支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「いつでもひととしての尊厳が保持できるために」の理念を基に、毎月行われる利用者の意見や要望を聞く「考えよまい会」や職員が気づいたときにさっと記録に残すことができる「ささっとコーナー」で利用者の意向などを把握・共有している。また、「集団から個人へ」を言葉通りに実践するために、職員が一丸となり、利用者個人の希望や意向をどうしたら叶えることができるかを、あらゆる関係者に相談し、直ぐ出来ることはもちろんのこと、時間がかかっても実践しようとする取り組み、支援している。職員、地域の人、ボランティア、障害者団体、家族など、人と人のつながりを大切に最大限活用しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で安心して普通の暮らしができるよう、事業所の理念に基づいて常に話し合い、毎日のミーティング、毎月1回の運営委員会やスタッフ会議で共有し実践につなげている。	地域密着型サービスの意義をふまえ、「いつまでも人としての尊厳が保持できるために」の事業所理念の下、毎日のミーティング等で検討し、共有している。地域のつながりを最大限活用した実践が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し、常会、清掃活動、地域行事等に参加し、利用者も含め産業祭、夏祭り等にも積極的に参加している。また、月1回のそよかせ通信を地域に回覧させてもらい、行事等への参加も呼びかけている。	自治会に加入し、利用者と職員が地域の行事に参加している。利用者が五平もちを作った時には、独居の高齢者に届けたり、地域の人々が気軽に訪れ、畑の野菜作りを手伝うなど、地域との交流が日常的に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報活動を主として、年4回のひなたぼっこ通信、月1回のそよかせ通信を地域を始め会員に配布し、地域の方からの相談に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎の推進会議では毎回現状報告や取り組みを報告し、有意義な意見交換が行われている。会議での意見は運営委員会に反映され、サービスの向上に生かされている。事業所の行事にも参加協力を得ている。	会議は2ヶ月に1回開催され、利用者や民生委員、地域委員などが参加して意見や情報の交換が行われている。グループホームが運営出来るデイサービスの開設などはこの会議での意見から発したことである。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新規事業開始の際、地域・事業所の実情を相談し実現に繋げることが出来た。市との連携を大切にし協力関係を保っている。GH部会では地域の実情の共有や研修会への協力をいただいている。地域の介護相談員制度にも積極的に協力し、サービスの向上に生かしている。	市との連携を大切にしている。市のグループホーム部会に参加し、情報の共有や意見交換を行っている。職員研修や地域の人を対象にしたセミナーの企画は、市の協力を得て実施している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしない、言葉の施錠も含め身体拘束をしないケアについての話し合いを重ね徹底に努めているが、必要に応じた安全策として職員の手薄になる夜勤帯に浴室、通用口の施錠、家族の同意を得たコールマットを使用している。	日々のミーティングで身体拘束について検討している。「どこへ行くの?」「だめ」などの言葉を使わないことだけではなく、なぜその行動が起きているのかを検討し、身体拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連の研修を受けた職員により学習を行い、スタッフ会議において常に状況を把握して虐待の見逃しがないように努めている。		

岐阜県 グループホームそよかぜ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営委員会では法人の事業であるところの自立支援事業について学んでいる。又、権利擁護の研修に参加し理解を深め、必要性のある場合は関係者と連携を持つようになっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約は利用者や家族に十分説明し、理解、納得を得ている。家族の疑問や不安には理解が得られるよう説明し、納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	通信の発行、家族会の開催、意見箱の設置、介護相談員制度の活用、地域運営推進会議の充実等により意見を反映している。また、利用者さんの意見は毎月の「考えよまい会」や日常の中で受け止め反映している。	毎月の「考えよまい会」では利用者の意見や要望を本人に語ってもらっている。そこで出た意見や要望をどうしたら実践できるかを、家族や運営推進委員会を通して検討し、ホームの行事等にも反映させ、実践につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は全員運営委員であり、運営委員会等において意見、提案を積極的に出し反映させている。また、専門委員会においても自由に意見、提案を出すことができる。	職員は、全員が運営委員会に所属しており、何らかの専門委員会に所属している。各委員会では、積極的な意見交換が行われており、運営はもちろん、職員の勤務時間や待遇の見直しにも反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所内は同一賃金、同一労働が基本であり、処遇委員会では常に職員の意見が反映され福利厚生の上昇に繋がっている。やりがいや各自の向上心が持てる環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ会議での毎回のミニ学習、職員 内部研修、並びに外部研修を受ける機会を確保している。研修委員会で計画を立て実施し、現場で働きながら技術や知識を身につけていけるよう支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会、岐阜県グループホーム協議会、ケアマネ部会で交流を行い向上に役立っている。また、中津川医療・福祉ネットワークの活動を通じ介護の質と地域福祉の向上を目標に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを重視し、本人に寄り添い、話をよく聞き要望に沿った支援に心がけ、就寝、居場所、役割作り等、安心を確保し信頼関係作りにも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望に応えながら自由な訪問により職員との信頼関係を築いている。家族会での交流や、連絡を密にとり合い協力する姿勢に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と本人が必要としている支援を見極め、通院のお助け事業、疾病への配慮、と対策に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の主体的生活を運営の方針とし、介護をする・されるの立場に立たず、対等な人間関係を堅持している。「考えよまい会」が一人ひとりの思いを出し合いより良い暮らし方を考える会として充実しつつある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日会、敬老会などに参加してもらい本人と家族の絆を深めると同時に家族と情報を共有し支えあう信頼関係に努めている。家族介護の困難さを理解し、自由な訪問によりゆっくり本人とすごせる環境を整えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所、祭り、左義帳、墓参り、運動会、喫茶店に出掛ける事により、馴染みの友人、知人に会う機会が持てる。自由に訪問し合い親戚、友人とゆっくり過ごす事ができる。	「集団から個人へ」をモットーに、利用者の「馴染みの人に会いたい、その場所へ行きたい」という希望を叶えることに主眼を置き、職員がいるいろいろな人に働きかけ実践している。自宅に戻って近所の人と会話するなど、その人個人の馴染みの関係を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	「考えよまい会」では皆さんと和やかに暮らすにはどうしたらいいか等意見交換がされ、お互いを認め合い体調不良時等思いやれる関係ができてきた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後のご家族には行事、ボランティア、忘年会への参加交流があり、また、法人への支援者でもあり通信の配布を行ない相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いや暮らし方の要望は「考えよまい会」を中心に深めている。アセスメントを重視し行事等から回想する事で意義ある生活につながっている。「ささっとコーナー」を設け、個々の小さな思いや希望、困難な方のシグナルや表情を把握し共有化に努めている。	「考えよまい会」で利用者本人の意見や要望を聞いている。日々の暮らしの中で職員が気づいたことは、その場で書き留められるよう「ささっとコーナー」が設けられ、職員で共有し、その人らしさを知ることによって役立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、既往症など利用者の歩んできた暮らしぶりを本人、家族、友人等から聞き取り把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のミーティングにおいて個人の心身状態を把握すると同時に、思いやできる事を検討し実践している。1日のマニュアルはなく利用者の顔、天候、声にそった過ごし方に努めている。出来たこと、見落とした事などささっとコーナーを活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画はアセスメントやモニタリングを繰り返し、複数の担当者、家族、本人で話し合い、スタッフ会議で再検討し全職員が共有している。基本的には3ヶ月ごとに見直しをしている。	スタッフ会議で定期的にモニタリングを行っている。利用者の担当者は、事前に本人や家族と十分な意見交換を行った上で会議に臨み、担当者が立てた介護計画を全職員で検討し、共有ができるよう実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、実施記録が活かした資料として介護の実践に反映されている。職員の気づきがささっとコーナーから反映され介護計画に活かされている。ミーティングの討議が記録されやすいよう記録用紙の改善を行ない共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅、外泊、家族旅行、受診など柔軟に対応している。自主事業の助け合い事業等の通院等の利用が増えてきた。地域のニーズに応じて共用型デイサービスを開設し、人間関係の巾がひろがってきている。		

岐阜県 グループホームそよかせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	喫茶店、買物、理髪、畑仕事、話し相手、清掃等定期的ボラの参加により安全に豊かな暮らしが楽しめている。、自治会の回覧を通じて産業祭、納涼祭、歌舞伎など催しに参加し希望に添った支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に添って入所前のかかりつけ医に引き続き定期受診や往診の支援をしている。状態変化があったときは速やかに嘱託医と連絡をとり処置を仰いでいる。月1回の定期往診が嘱託医により行なわれている。	本人や家族の希望に添ったかかりつけ医を選択してもらっている。体調不良時には、かかりつけ医や協力医に連絡し、指示を仰いでいる。協力医には、利用者全員の受診状況を連絡し、月1回の往診を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護資格者がおり状態変化を報告し、個々の健康・投薬管理、緊急時の対応にあたっている。疾病や緊急時には医療機関との連携を密に行ない適切な医療を受けられる支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	職員は本人及び家族に対し早期退院に向け励ましている。施設医や看護師、ケアマネを通じて病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化や終末期について家族、本人の考え方を聞いている。事業所の方針として希望があればターミナルケアを行なうことを伝え、重度化してきた場合には家族、かかりつけ医とともに嘱託医、職員も話し合いを重ね意向に添うために支援にとりくんでいる。	重度化や終末期においても、本人と家族の意向に添うよう体制を整えるという方針を決定し、入居時に説明し、意向を確認している。医師や家族との協力関係を築き、支援していけるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	体調変化を見逃さないよう「いつもと違う」への気付きに努めている。AEDの使用方法を定期的に訓練している。緊急時、事故発生時のマニュアルを作り速やかに対応できるよう整備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会で防災計画を立て、全職員を対象に定期的に昼間・夜間の避難訓練を実施し、防災ビデオによる学習も実施している。災害時、停電時に備えトイレ水、飲料水、保存食を常備、数ヶ月ごとに点検している。	2ヶ月に1回の避難訓練が実施され、夜間を想定した訓練も行われている。近隣の家とも緊急通報でつながっており、協力体制が整っている。訓練後には、反省会も行われ、今後活かしている。災害時や停電時の備蓄も用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の中で、相手の立場や気持ちを配慮した声かけや行動に心がけ、スタッフ会議や運営委員会で議論を重ね共有している。プライバシー確保に関わる点検はスタッフ会議で具体的事例で検討されている。	職員は、日常的に本人の様子を観察し、その行動から本人の思いや立場になって、人格尊重やプライバシー配慮に努めている。把握したことは、職員会議で話し合い、検討している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	事業所の理念に自己決定を掲げており、主体的生活の展望に基づき「考えよまい会」が毎月開かれ、日常的にも意見が出されるようになり、相談、決定、実行できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝時間をはじめ、日中の過ごし方も、一人ひとりのペースで過ごされ、やりたい事が自由にやれている。スタッフ会議では常に職員側の都合を優先していないかを話し合い、それぞれのやりたい事や希望に添った過ごし方を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洗面、整容、衣類を自分で選んでいただけよう助言しながら、気持ちよく生活して頂く事を心掛けている。定期的に見えるボランティアの床屋さんの散髪は、皆さんとても喜んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の食事は食事委員会にそれぞれの好みや声が反映され、献立が作られている。日々の料理はもちろん、郷土料理なども個々のできる事を一緒にすることで役割ができ、スタッフも一緒にテーブルを囲む事で話題もふくらみ楽し食事ができている。	郷土料理や行事食など、利用者の意見を反映させて献立が作られている。テーブルで野菜の皮むきをしたり、卓上コンロで調理をしたり、利用者と職員と一緒に準備や後片付けを行っている。	食卓テーブルと椅子の高さが本人に合っていないと正しい姿勢で食事を摂ることができないため、今後は利用者の体型に合わせた配慮が望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事水分摂取量をチェックし、体調管理につなげている。摂取量の少ない方や疾病について学習し、材料、形態や容器を工夫し、個々の習慣を理解し支援している。、嚥下状態の悪い方にはアイスマッサージを施行している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを個々に声かけし援助している。必要に応じ舌苔除去も行なっている。週2回入れ歯洗浄剤を使用し、義歯の清潔保持をしている。必要に応じ、歯科受診を勧めている。		

岐阜県 グループホームそよかせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンをチェック表に把握している。排泄の訴えのない人もシグナルやパターンを見逃さずトイレでの排泄の習慣に努めている。特に日中は布パンツ使用で十分対応できトイレ排泄できるようになった。	排泄チェック表で個人のパターンを把握し、シグナルの把握もしている。その結果、昼間はオムツの使用がなくなり、全員がリハビリパンツや布下着を使用し、トイレでの排泄が可能になった。排泄表での把握とトイレへの誘導を継続している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとり食事の工夫や水分摂取量、排便パターンをチェック表で把握し、医師の診断にて内服による管理もおこなっている。生活リハビリとしての運動を取り入れるなど便秘予防の対策としている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に添い無理せず、昼夜を問わず習慣、ペースに合わせている。入浴中はゆったり関わり楽しく入浴でき、個別入浴と同性介助により羞恥心に配慮している。身体状況に合わせて本人の意思によりリフトを使用し、安心、安全な入浴を心掛けている。	利用者の生活習慣や希望に合わせ、夜間入浴や同性介助による入浴も実践している。また、利用者の心身の状況に合わせ、リフトの利用やゆったりと入浴できるような支援が実践されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせた自由な生活と睡眠状況や健康状態を把握し、休息や起床、就寝できるよう配慮している。不眠時は日中の活性化を図り不安や寂しい気持ちには添い寝など寄り添う支援を行うこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法や用量を理解し健康状態を把握し症状の変化には医師に指示による服薬表への記載、申し送り周知をはかる。配薬、服薬の確認、服薬表の記入を複数の職員で行い誤薬の防止を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月の「考えよまい会」ではやりたいこと、どういう生活がしたいか、話し合い決定し実現している。昔からの生活習慣、季節の行事などでは個々の力を生かした役割が発揮されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や気持ちを汲み取り自宅、墓参り、親戚など行きたい所へ出掛けられるよう支援している。買物、ドライブ、地域行事などに家族、ボランティア、地域の協力をえて機会を作っている。	買い物や花見、墓参り、親せき宅や自宅への訪問など、家族に加え、ボランティアや地域の協力を得られるように働きかけ、利用者が外出したいところへは行けるように実践している。	

岐阜県 グループホームそよかせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理を希望される方は家族と相談のうえ現金を所持されている。買物等外出時には財布を持参し自由に使い楽しまれるよう支援している。出納帳により預かり金を管理し家族に確認してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はかけたいときはいつでも自由に使用できるよう支援している。届いた手紙を本人の希望により個別に読んだり代筆を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りに手造の花壇を置き花が楽しめ木造の作りは自宅と同じような雰囲気です馴染みやすくなっている。空調は自然に近い工夫がされ全館温度調整を行なっている。フロアからは自然が一望でき季節を感じ冬期にはこたつ等好きな所でくつろげるようになっている。季節の飾りつけや予定表は生活感があり暖かい空間をつくっている。	木造で、ゆったりと落ち着いた雰囲気があり、自然の光と風が取り込めるような建物の構造になっている。居間から見える景色は自然が豊富で、季節を感じることができる。行事予定などが掲示され、暮らしを感じられる雰囲気もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間のスペースを増やしテラス、たたみコーナー、こたつなどで、自由に過ごす事ができる。また、気のあったもの同士のおしゃべり、テレビ観賞、テラスでのひなたぼっこなど思い思いの居場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドの位置、タンス、鏡台、飾りつけなどは本人家族が相談され、使い慣れた家具も用意されている。個々の要望にそってラジカセ、テレビ、こたつなども置くことが出来居心地良く暮らしておられる。	利用者の生活習慣や意向に沿った家具が持ち込まれ、テレビ、コタツ、タンス、鏡台等が置かれている。配置の仕方も様々で、利用者や家族と一緒に居心地に配慮した居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関に階段昇降機を設置し必要箇所に手すりを設け状態に合わせて安全に移動できるようになっている。各居室に洗面コーナーを設け、トイレは4ヶ所あり各居室から近く混乱を防ぎ夜間も利用しやすくなっている。		